

鉄鋼新経営

2030年に向けて

—取り巻く環境が—
「半導体やフラットパネルディスプレイ製造装置関連は新型の需要が一段落し、調整局面に入っている。スマートフォンもヒット商品が見当たらない。シムレスパイプ用工具は安定している。2020年はとても厳しい年になるとみており、今年（20年12月期）業績は前年比で減収減益を予想している。前期（19年12月期）も第3四半期（19年1—9月期）までは順調に進捗したものの、10—12月期以降は出荷数量が急激に減っている。当初は19年10—12月期の流れが今上期まで続き、下期から回復するシナ



新報国製鉄社長 成瀬正氏

し、財務体質を改善することができています。以前で大きな投資は考えておらず、必要に応じて、またタイミシグをみながら、3D積層では生産能力を増強している。張合金の高精度測定装置導入を検討しています。

「三重工場では設備投資を含め、生産基盤を強化した。歩留まりや作業効率の向上でコストダウンを図り、安

リオを描いていたが、そこに新型コロナウイルスが発生し、先行きの見通しは不透明感が強くなった。特に中国の設備投資がどのように変化するのかが気になる。受注している案件の製品納入は決まっているが、これからの商談はどのよう

に進むかが見えてこない。いずれにしてもホジティブな結果にはならないだろう。しかし潜在的な需要はあり、新型コロナウイルス問題で受注・生産・出荷が一時的に延期になったとしても、時期の問題だと認識している」

—前期決算（19年

質の高い100億円企業に

12月期を総括すると。「19年12月期決算は前年比で減収減益となった。前期は前中期経営計画の最終年度にあたる。前中計では半導体やフラットパネルディスプレイの基盤固めに取り組みと同時に生産基盤の確立、研究体制の充実、新製品拡販に向けた準備、人材育成などに力を注いできた。売上高は17年12月・6炉体制とし、月間生産能力を50%アップした。このほか、誘導結合トランスミシジョン技術は世界トップレベルと自負している。立休倉庫に関しては社員が工夫を施すことで、コストをかせげずに設置す

全対策や環境整備、老朽設備更新も実行。その一環として、製造技術のレベルアップにも力を注いでいる。当社の製造シミュレーション技術は世界トップレベルと自負している。立休倉庫に関しては社員が工夫を施すことで、コストをかせげずに設置す

コンピュータ駆使 解析 製造技術力を向上

成功の大きな要素である納期対応力を高めるべく、

「優秀な人材を確保することができ、至近3年間で研究開発体制が充実している。大学院と国立大博士課程修了者1人を採用。これ博士課程修了者は常勤社員3人、顧問5人の合計5人になった。また現在、技術系若手社員1人が東京工業大学大学院で博士課程の修了を目指して学習、研究に努めている。研究員のレベルアップを推進する一方で、幹部候補の育成にも尽力しており、経営セミナーで学んだ内容を研修という形で社内シェアすることで全社スキルのレベルアップに結び付けている」

「低熱膨張合金、耐熱鋼など新製品の拡販状況はどうか。」「需要家への採用は進展している。19年に販売促進特別チームを新設し、この組織を軸として需要家に新製品をアピールし、国家プロジェクト向けなどへの適用を図ってきた。低熱膨張合金は広範・多岐にわたる分野で採用に向けた検討が進んでおり、航空分野では高耐力インバー合金が航空機用CFRP金型用で国内メーカー向け納入が始まった。国内だけでなく、海外メーカーとも話が始まっており、受注につながる」と期待している。このほか、天文観測衛星で採用に向けた試作が進捗し、半導体検査装置や工作機械用軸部品向けに受注実績が漸増してきている。

「耐熱鋼はパイオマックス発電ボイラ部品でエロージョンと耐酸化に優れたG材と耐塩素カス腐食に優れたF、GNIS合金が好評。この知見を基に、さらに腐食環境が厳しい産業廃棄物焼却炉消耗品に関し、需要家による性能評価を行っている段階だ。パイオマックス発電設備や産業廃棄物焼却施設は摩耗と腐食が激しく、これが進めば稼働率低下につながるため、当社製品に対する引き合い、受注が増えている。特にパイオマックス分野での採用実績は着実に伸長しており、他分野を含めて、耐塩素合金は二スがあるだろう。また将来的に市場拡大が期待される空飛ぶ自動車など新分野にも標準を合わせる。新製品事業開発を強化することで、半導体およびフラットパネルディスプレイ、シムレスパイプ用工具に次ぐ収益の柱に育てていく」

—前中計後の中期ビジョンを。

「前中計で強固な経営および生産基盤を確立し、独自の製品も開発した。今後も当社が進むべき方向性も変わりはなく、創立80周年を迎える29年に向けて、質の高い100億円企業を目指す。鍛造パイオマックスは前時代的思考かもしれないが、時代が変わっても素材は必要。パイオマックス時代だからこそ、当社はリアルな世界で一步一歩着実に取り組んでいきたいと考えている」

（濱坂 浩司）